

令和5年度第1回「四日市羽津医療センター地域協議会」

令和5年度第1回「四日市羽津医療センター地域医療支援委員会」事蹟書

【日 時】令和5年7月5日(水)19:30~20:40

【場 所】四日市羽津医療センター4F 多目的ホール

【出席者】中嶋一樹(当会委員長、四日市医師会副会長)、柴田英治(当会副院長、四日市看護医療大学学長)、伊藤誠也(四日市市北消防署署長)、山路知良(四日市市自治会連合会会長)、内田寛(羽津地区連合自治会会長)、羽場誓司(海蔵地区連合自治会会長)、坂本寛(富洲原地区連合自治会会長)、中村雄一(大矢知地区連合自治会会長)、徳山直子(三重県乳腺患者友の会『すずらの会』代表)

以下 当院職員 住田安弘(院長)、山本隆行(副院長)、長谷川浩司(副院長)、石井雅昭(附属介護老人保健施設長代理)、澤田豪人(事務部長)、牧野真美(看護部長)、山口裕子(附属訪問看護ステーション看護師長)、中島佐知子(地域連携室看護師長)、位田弥生(総務企画課長)、中川佳代(附属介護老人保健施設管理係長)

(澤田事務部長)

ただ今より、令和5年度第1回「四日市羽津医療センター地域協議会」並びに「地域医療支援委員会」を開催いたします。開催にあたりまして当院院長住田よりご挨拶申し上げます。

○院長挨拶

皆様こんばんは。院長の住田でございます。本日は足元の悪い中、遅い時間にお集まりいただきありがとうございます。この委員会は、当院が三重県から地域医療支援病院の指定を受けておりますこと、もう一つは、当院を運営しております地域医療機能推進機構が地域医療を守るため、我々が普段どのような業務をしているのかを皆様方に申し上げて、ご理解いただきたいと開催しております。コロナ禍で3年くらい対面でのこの会が途絶えておりました。ほとんどの方が初めてお会いするのかなと思います。地域協議会は年2回、あるいは地域医療支援委員会は年4回開催しておりますので、ぜひご出席賜りまして、この病院がどのようなことを頑張っているのか、また、皆様のご意見がございましたらすんでご意見いただきたいと思います。引き続き今後ともよろしく願いいたします。

本日は事項書のとおり当院がどのような診療をしているのか、どのようなことで地域の皆様方に貢献しているのかをお話を申し上げ、ご意見を頂戴したいと思います。遅い時間でございますが最後までよろしく願いいたします。

1. 四日市羽津医療センターからの報告事項(別添資料参照)

- 1) 病院の現況報告について(山本副院長)
- 2) 介護老人保健施設の現況報告について(石井施設長代理)
- 3) 訪問看護ステーションの現況報告について(山口看護師長)

報告事項についてのご意見、ご質問等

- 1) 病院の現況報告について
特になし

- 2) 介護老人保健施設の現況報告について

(中村委員)

全国的だと思いますが、介護職員の不足は慢性的なものなのか、ここしばらく何年かはよかったが離職率が高くなった、などいろいろ理由があると思いますがいかがですか。

(石井施設長代理)

日本全体として働く人の数が頭打ちになっている中で、介護を必要とする人は今後ピークが 2040 年ごろと言われています。介護を必要とする人が増えていく中で、介護できる人が高齢化を迎え、全体的な人数が減っていく状況ですので、今後さらに状況は厳しくなっていくと思います。

(坂本委員)

介護職員の不足に関して、労働に対する対価については、看護師不足も同様に高齢者が増えたこともあるが、介護をやる方の賃金不足、労働条件が合わない等新聞などで出ています。そういう対策はされていますか。

(中川管理係長)

介護職員に関しては、巷で言われているつらい、きたない等負のイメージがついていて、昨日も学校回りに行きましたが、どうしても日本の子供の数が少ない、外国の方がたくさんいらしている現状があり、外国の方に頼らざるを得ない現状もあります。介護職員がここ 2、3 年で急激に減ったのはコロナの影響もありまして、留学生の受け入れがストップしてしまっていることや、学校自体も定員割れをしていることで、ここ 2、3 年はすごく切迫しているところですが、当院も介護職員が 35 人くらいいますが、自身のやりたいことのために仕事を休業したり、という問題もでています。介護職員の処遇を手厚くするために福利厚生のところや、処遇改善のための保証も行政からあるので、県に申請して確実に職員に支援をしています。賃金のところは最大限できることはしているという状況です。

(坂本委員)

在宅、複合型が富洲原地区にあります。小規模(20名)と、このような大きな組織の中での老健という現状はいかがですか。1週間前に会議があり、在宅、複合型では心を込めてケアにあたっている印象でした。羽津は最終的に 90 名で抑えているということですか。

(中川管理係長)

90名で抑えているということではなく、介護職員の人数にもよります。より安全に、リスクを軽減しながら皆様のご要望にお応えしてお受けするというのが当施設かと思います。いろんなタイプの施設、グループホーム、有料老人ホームなどありますが、その方の置かれている家庭環境、疾患をどこまで施設の中でみられるか、医療を優先させたいのであれば介護院などがあります。まだまだご自身で生活ができる、もう少し自由になりたいなどあれば有料老人ホームやグループホームがあります。その方にあつたところで過ごしていただく。それに伴って通所など利用していただいて、体の健康維持には通所リハビリなど有効に活用していただきたいと思います。

- 3) 訪問看護ステーションの現況報告について
特になし

2. その他

- 1) 当院の災害対策について

(山路委員)

レベル2の場合は4km以内に居住の職員を参集するとのことですが、全職員の何割位ですか。

(牧野看護部長)

看護部ではレベル2は90名程度、レベル3では130名程度です。自分のところが被害を受けたときにはすぐに来られないこともありますが、大体の人数は把握しています。

(中嶋委員長)

人的被害など、実際には自分の身を守ることが最優先になりますので、その後参集になりますね。自動で参集できるシステムを各団体立ち上げていて、上層機関が動かなくても連絡が自動で発信されるというようなことも進んでいると思います。縦割りではなくて、地域と病院、病院と医師会などの団体との共通に動くような決定であったり、意識共有であったり三方が続べているというのが現状かと思います。

3. 意見交換

(徳山委員)

30年前にこちらで乳癌手術をしていただきましてから、無事にこのように過ごしております。お礼を申し上げたいと思って参りました。石井先生は県立医療センターにいらした時に、私が10年目でした。10年目の検査を石井先生が担当していただき、御恩のある先生にお会いできて今日は良かったと思います。コロナでダメになるかと思いましたが患者会を続けてられていて、小さい集まりを月1回開催しています。三重県で乳癌患者会を作ったのは初めてでしたが30年続いております。医療の方々のおかげと感謝しています。災害のとこ

ろでふと思ったのが、入院中の方、手術直後の方、手術中に災害が起きたなど、ドラマで見たりしますが、医療現場がものすごいことになると思います。そんな時は皆様方ご自愛をいただきますようにと思います。

(柴田副委員長)

健康管理センターを含めて非常に活発に活動されていて素晴らしいし、こういった形で活動を告知くださるのもありがたいです。今日は地域の住民の代表の方がいらして、地域ぐるみで子供からお年寄りまで、災害時含めて羽津医療センターが多面的な活動をされていることが確認できて素晴らしいと思いました。本学に関わることで申しますと、看護職を供給するという機能が大学にはあります。看護師の離職と、供給、求人が常に必要とされています。常にいないといけないという状況でご苦労が多いのではと思いますので、そのあたりの状況を看護部長にご質問したいです。

(牧野看護部長)

ありがとうございます。4月に先生の大学に一度講義に行かせていただいて、素晴らしい学生さんたちで、感想文などをいただいてすごく感動しました。看護師は全国的にすごく不足してしまっていて、コロナの影響がとて大きかったのではと分析されていますが、当院においてはそんなに影響がないのではと思っています。必要数は少し足りないところもありますが、患者数と比較すると決して今足りない状況ではないので、このままやっぺいこうと思います。全国的にみても三重県は離職率が低いです。名古屋の病院の方がかなり多いですね。当院においてはそんなに心配しておりません。

(柴田副委員長)

看護学生も、もともと少子化で高校生が減っていることもあり看護学科について定員割れはおきていませんが、関東地方や首都圏では看護学部、看護大学の定員割れが始まっています。三重県も同じようになると思います。医療系への志望者が減り始めているのではという印象で、県立看護大学の先生も同じことをおっしゃっていて、県下で全体が減っているということに輪をかけて医療系への敬遠があつて、医療はやりがいがあつて素晴らしい仕事だとアピールしていかないと今まで通りでは学生が集まらないので、一緒に協力していければと思っていますので今後ともよろしくお願ひします。

(中嶋委員長)

四日市医師会も看護専門学校を抱えていまして、学生のレベルでは足切りの段階をどんどん下げなければ人が集まらない。これからは外国出身の方であるとか、他の学校では入学条件を満たさない方とか、成績優秀者へは資金的な免除であるとか、いろいろな手を打たないと、愛知県でも看護学生の引っ張り合いがあるでしょうし、三重県、四日市市のレベルだと引っこ抜かれていなくなってしまうというような危惧をもっています。就職先である羽津医療センターが、看護待遇であるとか、魅力のある仕事づくりを担っていただくのは非常に大きな支えになりますのでよろしくお願ひいたします。

(伊藤委員)

救急件数の話がございましたが、昨年 166 件増えたという話がありまして、私ども救急は昨年 17,000 件救急出動があり、一昨年に比べますと 2,500 件増えました。コロナ禍の原因と、熱中症、高齢者が増えているなど社会情勢すべてが反映されていると感じています。5 類になって件数が減ってきたかという今年になってからも減らずにいますので、羽津医療センターは 8%という状況ですが、今後も継続的に収容をお願いしたいと思います。北消防署の管内は県立、市立に搬送しますと帰ってくるのに時間がかかります。その間に出動がかかる、北消防署管内に救急車がないということもありまして、昨年のコロナの時は救急車の台数が足りなくなったということもあり、予備の救急車を出すなど策を打っていた中で、収容先がなかなか決まらないことで帰ってこれないということもありますので、是非ともお願いしたいところです。

(内田委員)

昨年大腸癌の手術でこちらに入院しました。コロナで大変寂しい入院生活でしたが今は元気で何もなく本当に助かっています。ありがとうございます。それから羽津地区は石井先生に大変お世話になって、サロンでもお話が高齢者に人気です。今日はユマニテクの学生が講師をしてくれました。最近通信制の高校生が 3 人ボランティアに来てくれて、進路を将来的に介護の関係の学校に進んでいくという希望が何人かあり、目的を見失った子供たちが目的を見つける場になって、石井先生の人柄あってのことだと思います。これからも地域が病院と手をつないで地域の高齢者や、悩んだ学生たちが前を向いていけるようになっていければと思います。ありがとうございます。

(中嶋委員長)

どうもありがとうございました。それでは事項すべて終了しましたので事務部長にお返しさせていただきます。

(澤田事務部長)

中嶋先生どうもありがとうございました。次回の開催日程ですが、冒頭に院長が申し上げましたように、地域医療支援委員会は当院が地域医療支援病院の指定を受けております関係で、年 4 回開催させていただいており、地域協議会は、当院が JCHO という独立行政法人という組織でその法律で年 2 回開催しています。どちらも目的は当院の運営内容をお話して、地域の方からご意見、ご要望をお聞きするためとなっています。次回は地域医療支援委員会を 9 月 28 日(木)夜の遅い時間は大変ですので、午後 2 時から開催させていただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。それでは、閉会にあたりまして副院長の長谷川よりご挨拶申し上げます。

4. 閉会挨拶

(長谷川副院長)

皆様方、長時間にわたりまして当院の現状と問題点に関しまして貴重なご意見を頂戴しあ

りがとうございました。私もこの 4 月から副院長を拝命いたしまして、若輩でまだ十分に皆様方のお力になれていないと思いますけれど、これから地域の皆様、医師会、消防と貴重な人材支援を頂いています四日市看護医療大学、関係の方々とも協力させていただきまして、地域の皆様方により好かれる、頼っていただける病院にしていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

(澤田事務部長)

それではこれもちまして、本年度第 1 回「四日市羽津医療センター地域協議会」並びに「地域医療支援委員会」を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。